



角 笛 会 会 報

ホームページ: <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/%7Etsuno.hp/index.shtml>

発行所

日本大学生物資源科学部
獣医学科角笛会

〒252-8510

藤沢市亀井野 1 8 6 6

0 4 6 6 - 8 4 - 3 3 8 6



巻頭のご挨拶

角笛会会長 中 川 秀 樹 (昭和40年卒)

当日は100周年を祝うが如くの好天の秋日和に恵まれ、早くから母校に足を運ばれた会員の方々には整備・充実された学部施設を見学されたり、広いキャンパスで緑の風を感じつつ旧交を温められたり、教職員の先生方と懐かしそうに談笑されるなど、微笑ましい光景に包まれていました。

獣医学教育100年の歩みは草創期から今日まで、時代を背景とした社会の要請に応じて教育年限並びにカリキュラムが様々に変革してまいりました。式典の中では、スライドを通じてその歴史を回顧することで諸先輩の御苦労と業績に改めて敬意を表すると共に、今日の獣医学教育の発展が此処に至ったことに感銘を受けた次第であります。

現在の獣医師の職域は多様かつ広範となっており、業務を所管する省庁も農林水産省、環境省、文部科学省と多岐に亘っています。また、一方ではグローバルスタンダードに準拠することが求められており、より高水準で広範な教育が必要とされています。本学の獣医学教育が常に先進し、日本の獣医学教育の発展をリードしていく存在であり続け、優れた獣医師を世に送り出すことを念願すると共に、校友会としても協力と支援を進めていかねばなりません。今後とも角笛会会員各位には後進への指導、助言と親睦並びに友愛を賜りますよう御願い申し上げます。

終わりに100周年記念事業に際して式典準備、名簿制作、記念誌作成に尽力され、また、式典と祝宴の開催に精励を賜りました校友各位に深甚なる感謝を申し上げます。

今後とも角笛会の発展に御支援御協力を御願い申し上げますと共に各支部の隆盛を御祈念申し上げます。



ご 挨 拶

獣医学科主任 佐 藤 常 男 (昭和50年卒)

本年4月より金山喜一教授の後を受け、学科主任の大役を仰せつかりました。浅学非才の身ではありますが、学科発展のために精一杯尽くしたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

さて獣医学科は本年創立100周年という大きな節目を迎えました。中川秀樹会長始め角笛会会員の皆

様には10月13日に盛大な記念式典および記念祝賀会の開催にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

月日の経つのは早いもので、思い出多き世田谷区下馬から藤沢に移転してから20数年が経ちました。現在、獣医学科は1年次から6年次までの6学年862名(男子423名、女子439名)の学生が勉学に励んでおります。これに加えて大学院獣医学研究科博士課程には27名(男子19名、女子8名)の学生が在籍し、日夜研究に勤しんでおります。毎年多数の志願者が獣医学科を目指しており、本年4月には153名の新生を迎えました。期待と不安の新生を迎えての湘南鵠沼海岸で好天に恵まれた4月30日、恒例の地引網が行われたり、これまた5月26日の好天下に行われた生物資源科学部の運動会であるスポーツフェスタ2007では、学科対抗の綱引きに獣医学科が優勝したりと、仲間意識の高まりを感じさせられました。卒業生についてみますと、今年の3月には6年間の学業を終えた137名の学生が卒業し、このうち129名が獣医師として社会に巣立ちました。多くは小動物臨床に進みましたが、公務員や産業動物診療獣医師になった卒業生も少なくありません。本学の獣医師国家試験合格率は高く、昨年に続き今年も私立大学第1位の好成績を示しました。獣医師養成を基本目標とする獣医学科としては、非常に喜ばしいことです。一人でも多くの合格に向けて学科全教員が全力をあげて努力しておりますので、その成果が実を結んだといえます。

最近の施設面についてみますと昨年度に臨床系5研究室が配置された9号館の完成に続いて、基礎系7研究室が配置されている6号館の改修工事が本年8月に完了し、ホルマリンガス除去装置など最新の実習設備も導入され、教育環境整備が一段と進みました。快適な環境下で学生諸君は日々充実した専門教育を受けております。また透過型電子顕微鏡などが設置された獣医学科機器室も整備され、教育・研究面でも大きな期待が寄せられております。

私どもといたしましては多くの学生から入学してよかったと思われるよう、さらなる獣医学教育の充実を目指して、日々努力を重ねていきたい所存でございます。角笛会の皆様には一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともにご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

◆◆◆◆◆ 獣医学科創立100周年記念式典・祝賀会開催さる ◆◆◆◆◆

日本大学生物資源科学部 丸 山 総 一

平成19年10月13日（土）、午後2時から日本大学生物資源科学部本館大講堂において獣医学科創立100周年記念式典（主催：獣医学科校友会 角笛会）が盛大に開催されました。

当日は日本大学・獣医学科の創立100周年の慶事を祝賀するには絶好の好天に恵まれました。1時過ぎから、三々五々会員（卒業生）の方達が参集し、式典前にはすでに学生時代を懐かしむ旧友同士の会話がそこかしこで聞こえてきました。

日本大学生物資源科学部獣医学科は1907（明治40）年に設立された東京獣医学校を起源としています。その後、東京高等獣医学校、東京獣医畜産専門学校、東京獣医畜産大学、昭和26年に日本大学農学部と合併し日本大学農獣医学科獣医学科となった後に平成8年に学部名称を現在の日本大学生物資源科学部に改称されました。その間、13,000名を超える卒業生を世に輩出し、日本の獣医界の基幹を担ってまいりました。この歴史ある本学獣医学科の100周年を祝賀するため、全国から275名が参列しました。



中川会長挨拶

当日の司会進行はNHKのチーフアナウンサー畠山智之氏にお願いいたしました。畠山氏は昭和56年に農獣医学部食品工学科を卒業し、NHKに入局した異例の経歴の持ち主ですが、日大の同窓ということで、今回の司会を快く引き受けていただきました。

式典は、角笛会副会長・田中 茂男教授の開会の言葉で始まりました。中川秀樹／角笛会会長からは、参列者へのお礼の挨拶の後、現在の日本大学の礎を築いた



生物資源科学部長・酒井健夫教授による記念講演

先輩の会員達への感謝の気持ちとすばらしい設備・教授陣のもとで100年の歴史に立脚した最先端の獣医学教育を受けられる準会員の喜びを代弁していただくと共に、今後の本学獣医学科に対する期待と希望をお話いただきました。続いて、生物資源科学部管弦楽団の演奏をバックグラウンドミュージックに、「日本大学・獣医学科の100年の歩み」の画像映写と畠山氏のナレーションによる解説があり、同窓全員が学生時代を懐かしむとともに本学が歩んできた100年の歴史の重みを感じることができました。生物資源科学部を代表して酒井 健夫学部長、日本獣医師会を代表して蔵内 勇夫副会長、生物資源科学部校友会を代表して茂澤 泉会長らご来賓の祝辞に続き、会員を代表して田中 延吉・元角笛会会長、準会員を代表して獣医学科5年生大竹 詩織さんからそれぞれ挨拶がありました。生物資源科学部長・酒井 健夫教授による記念講演「わが国の獣医学教育の歩みと将来への期待」では、これまで日本の獣医学教育がどのように変遷してきたか、本学の歴史とオーバーラップさせながらお話しいただくと共に、本学の理念に基づき、今後わが国あるいは世界で活躍する獣医師を育てて行く上でどのような教育が重要なのかを熱く語っていただきました。続いて、戦後の一時期、崩壊状態にあった角笛会の組織を立て直し、現在の角笛会の基礎を作ると共にその発展に大いに尽力された田中 延吉氏、日比野 次郎氏、宮田 萬司氏の三名の顧問に対する特別功労者表彰と、三代にわたり日本大学を卒業されたご一家（別表参照）の三代角笛会会員表彰が行われ、中川会長から賞状と記念品が授与されました。その後、日本大学校歌、「日に日に新たに」を全員で斉唱し、日本大学・獣医学科同窓の絆を深めることができました。最後に、岩田 穎三・角笛会副会長の閉会の言葉をもって式典はおごそかに終了しました。



三代角笛会会員表彰

祝賀会は16時から別棟のNUBSホール3階で開催されました。祝賀会は、中川会長の挨拶で始まり、酒井学部長、水谷 渉・神奈川県獣医師会会長、越久田 健・横浜市獣医師会副会長らご祝辞を頂戴しました。その後、次の百年へ向けた飛躍の願いを込めて、中川会長、酒井学部長、長尾副会長、田中・宮田両顧問により、「一、二のヨイショ！」の大きなかけ声と共に清酒二斗樽の鏡割が行われました。長尾副会長の音頭で乾杯の後は、会場のそこかしこで、会員達の談笑の輪ができていました。また、五十嵐 幸男・前日本獣医師会会長からは、角笛会員と日本の獣医師へ向けた熱いメッセージもあり、参加者一同大いに刺激を受けました。余興では、管弦楽団による東京高等獣医学校・東京獣医畜産専門学校・東京獣医畜産大学の校歌「牧歌」が演奏されました。この「牧歌」は、作詞：北原白秋、作曲：山田耕筰で発表当時、歌手の淡谷 のり子、中野 忠晴が一般聴衆の前で歌ったといわれています。この祝賀会のために獣医学科3年生の船山 マリナさんが古い楽譜を新たに起こし直し、夏休みの合宿で練習した成果を披露してもらいました。初めてこの場で「牧歌」のメロディーを聞いた会員も多かったのではないかと思います。続

いて、本学の鯉江 洋専任講師による尺八演奏、滝山 直昭助手（ベース）、研修医 山本 洋史氏（ギター）、阪本 裕美氏（キーボード）らによる楽器演奏が、大いに会場の雰囲気盛り上げてくれました。時間は瞬く間に過ぎ、6時には全員が名残を惜しみつつ祝賀会はお開きになりました。

角笛会の多くの会員が日本大学・獣医学科が歩んできた百年の歴史の重みを感じ、また、獣医学科の将来に対する期待に大きく胸をふくらませることのできた式典・祝賀会でした。



祝賀会風景

平成19年度 角笛会総会開催

平成19年 6月 2日（土）、午後15時20分時から日本大学湘南校舎第4講義室で、平成19年度の角笛会総会が開催されました。昨年度と同様に、午前中は第45回日本大学獣医学会、午後からは角笛会という合同開催のスタイルでした。角笛会の幹事会、総会の冒頭に中川会長から「今年は獣医学科創立100周年記念式典が予定されており、多くの会員に参加を呼びかけ、この慶事を是非とも盛会にしたい。」と挨拶がありました。続いて事務局から提出された平成18年度の事業報告、会計報告が、山村穂積監事の監査報告の後、承認されました。平成19年度事業計画案、同予算案も審議され、承認、成立致しました。本年度のANMEC（日本大学動物病院）支援基金は、岡田みどり先生の「骨髄空洞症についての疫学調査」ならびに手島健次先生の「犬の麻酔時低血圧および徐脈に対する強心昇圧剤の有用性に関する研究」にそれぞれ授与されました。

4名の新支部長の就任に伴う幹事候補と今年度卒業のクラス幹事 橋本岳樹氏、大森澄枝氏がそれぞれ承認されました。総会終了後、今年の角笛会功労者10名に記念品目録とともに表彰状が授与されました。

午後4時30分からNUBSホール3階にて催された懇親会には、茂澤杲校友会長をはじめ同僚校友会の来賓の方々、校友、獣医学科教員を含め約70名に参会いただきました。懇親会は、和やかな雰囲気のもとに進行し、会場のあちこちで談笑の輪ができていました。

総会資料

平成18年度一般会計収支決算報告書

平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで

一般収入の部

科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 支部会費	1,600,000	1,625,000	△ 25,000	1625人×1,000円
II. 新入会員費	1,200,000	1,705,000	△ 505,000	校友会本部
III. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
IV. 雑収入	6,433	4,615	1,818	利息等
V. 前年度繰り越し額	1,583,567	1,583,567	0	17年度分
収入合計 (A)	4,590,000	5,118,182	△ 528,182	

一般支出の部

科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 経密費	2,160,000	1,478,017	681,983	
1. 会合費	200,000	23,736	176,264	会議等
2. 交際費	300,000	203,100	96,900	支部総会祝い金等
3. 旅費交通費	700,000	696,000	4,000	支部総会旅費等
4. 通信運搬費	200,000	138,270	61,730	通信料・郵送料
5. 事務局運営費	760,000	416,911	343,089	給食・消耗品等
II. 会報費	200,000	180,000	20,000	会報22号
III. 名簿管理費	300,000	107,774	192,226	業務委託費等
IV. 新入生・卒業生記念品費	400,000	291,275	108,725	平成18年度新入生・卒業生
V. 褒賞費	200,000	147,420	52,580	功労賞・角笛会長賞・特別賞
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第44回日本大獣医学会
VII. 補助費	100,000	100,000	0	第50回日本大学医歯学同窓・校友連合会
VIII. 組織拡充費	100,000	20,350	79,650	ホームページ管理等
IX. 特別会計Ⅰ	300,000	300,000	0	名簿会計へ
X. 特別会計Ⅱ	300,000	300,000	0	将来事業基金へ
XI. 予備費	330,000	135,000	195,000	懇親会補助
支出合計 (B)	4,590,000	3,259,836	1,330,164	三菱銀行

平成18年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B)

1,858,346 円

平成18年度特別会計Ⅰ 収支決算報告書【名簿会計】

平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで

収入の部

科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	(平成18年度分)
II. 雑収入	3,404	2,235	1,169	利息
III. 前年度繰越額	4,766,596	4,766,596	0	
収入合計 (A)	5,070,000	5,068,831	1,169	

支出の部

科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 名簿作成費	5,070,000	706,373	4,363,627	印刷代、郵便代、インターネット作成
II. 雑支出	0	0	0	
支出合計 (B)	5,070,000	706,373	4,363,627	

平成18年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B)

4,362,458 円

平成18年度特別会計Ⅱ 収支決算報告書【支援基金・将来事業資金】

平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで

収入の部

科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	(平成18年度分)
II. 雑収入	9,466	3,371	6,095	利息
III. 前年度繰越額	7,190,534	7,190,534	0	
収入合計 (A)	7,500,000	7,493,905	6,095	

支出の部

科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 研究助成費 (ANMEC支援)	500,000	300,840	199,160	ANMEC支援基金(含振込手数料)
II. 特別事業費	1,000,000	0	1,000,000	100周年記念式典準備
III. 将来事業基金	6,000,000	0	6,000,000	
支出合計 (B)	7,500,000	300,840	7,199,160	

平成18年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B)

7,193,065 円

平成18年度懇親会費 収支決算報告書

収入の部

科目	予算額	決算額	差 異	備 考
懇親会参加費	400,000	270,000	130,000	3,000円/54人

支出の部

科目	予算額	決算額	差 異	備 考
懇親会費	400,000	405,000	△ 5,000	

平成18年度

収支差額

△ 135,000 円

赤字分は一般会計予算費から補充

平成19年度一般会計 予算(案)

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

一般収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 支部会費	1,600,000	1,600,000	0	1600名×@1,000
II. 新入会費	1,700,000	1,200,000	500,000	校友会本部
III. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
IV. 雑収入	1,654	6,433	△ 4,779	預金利息等
V. 前年度繰り越し額	1,858,346	1,583,567	274,779	
収入合計	5,360,000	4,590,000	770,000	

一般支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 経常費	2,160,000	2,160,000	0	
1. 会合費	200,000	200,000	0	会議等
2. 交際費	300,000	300,000	0	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	700,000	700,000	0	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	200,000	200,000	0	通信
5. 事務局運営費	760,000	760,000	0	給食、ソフト等
II. 会報費	200,000	200,000	0	会報23号
III. 名簿管理費	300,000	300,000	0	事務委託等
IV. 新入生・卒業生記念品費	400,000	400,000	0	平成19年度新入生・卒業生
V. 褒賞費	200,000	200,000	0	功労賞・角笛会長賞・特別賞
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第45回日本獣医学会
VII. 補助費	100,000	100,000	0	日本大学医療系同窓・校友連絡会
VIII. 組織拡充費	100,000	100,000	0	ホームページ管理等
IX. 特別会計Ⅰ	300,000	300,000	0	名簿作成繰入金
X. 特別会計Ⅱ	300,000	300,000	0	将来事業繰入金
XI. 予備費	1,100,000	330,000	770,000	
支出合計	5,360,000	4,590,000	770,000	

平成19年度特別会計Ⅰ 予算【名簿会計】(案)

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 雑収入	2,542	3,404	△ 862	預金利息等
III. 繰越額	4,362,458	4,766,596	△ 404,138	
収入予算合計	4,665,000	5,070,000	△ 405,000	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 名簿作成関係	4,400,000	5,070,000	△ 670,000	300部、データ登録・整理
II. 雑支出	265,000	0	265,000	
支出予算合計	4,665,000	5,070,000	△ 405,000	

平成19年度特別会計Ⅱ 予算【支援基金・将来事業資金】(案)

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 雑収入	6,935	9,466	△ 2,531	預金利息等
III. 繰越額	7,193,065	7,190,534	2,531	
IV. 記念式典参加費	2,000,000	0	2,000,000	200名分
収入予算合計	9,500,000	7,500,000	2,000,000	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 研究助成費	500,000	500,000	0	ANMEC支援基金
II. 特別事業費	3,400,000	1,000,000	2,400,000	100周年記念式典、記念品、賞状会
III. 記念誌作製関係	3,800,000	6,000,000	△ 2,200,000	3000部
IV. 印刷費	1,800,000	0	1,800,000	
支出合計	9,500,000	7,500,000	2,000,000	

平成19年度懇親会費 予算(案)

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
懇親会参加費	400,000	400,000	0	5,000円/人
支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
懇親会費	400,000	400,000	0	

動物病院だより

ANMECセミナー開催報告

動物病院は卒業生の皆様のご支援のおかげで、順調に来院患者数を伸ばしています。現役学生も現場の環境に触れることができ、大きな教育効果をあげています。患者紹介方法は大学ホームページにて詳細を掲示していますので参考のほどよろしくお願いします。

平成19年度 ANMECセミナー開催(第128回～第139回)

第128回 (H18.12.18開催) 参加者70名(外部4名・内部66名)
教育講演;「動物病院内での感染対策について」

コーディネイター 加納 壘

1. 細菌感染 鎌田 寛(獣医微生物学)
2. 真菌感染 加納 壘(獣医臨床病理学)
3. ANMECにおける感染対策 坂井 学(獣医内科学)

第129回 (H19.1.22開催) 参加者50名(外部7名・内部43名)
教育講演;「びまん性肺炎患の診断の進め方」
山谷 吉樹(総合臨床獣医学)

第130回 (H19.2.19開催) 参加者72名(外部13名・内部59名)
教育講演;「腫瘍外科学」
浅野 和之(獣医外科学)

第131回 (H19.3.19開催) 参加者60名(外部8名・内部52名)
教育講演;「獣医内視鏡学(消化器)」
コーディネイター 坂井 学
1. 腹腔鏡で覗く獣医内科学 坂井 学(獣医内科学)
2. 内視鏡でこまでわかる、こまでできる 亘 敏広(総合臨床獣医学)

第132回 (H19.4.16開催) 参加者103名(外部5名・内部98名)
教育講演;「整形外科疾患と神経疾患の判別のコツ
～各種神経疾患のトピックスを中心に～」
枝村 一弥(獣医外科学)

第133回 (H19.5.21開催) 参加者123名(外部23名・内部100名)
教育講演;「犬や猫におけるリハビリテーション医療の実際
～リハビリテーションを真剣に考える～」
枝村 一弥(獣医外科学)

第134回 (H19.6.18開催) 参加者98名(外部10名・内部88名)
教育講演;「犬と猫の肥満症と適切な減量作戦」
Dr.Richard C Nap
(ヨーロッパ獣医外科専門医・比較栄養学専門医)

第135回 (H19.7.23開催) 参加者31名(外部5名・内部26名)
教育講演;「現場で遭遇する不整脈」
鯉江 洋(獣医内科学)

第136回 (H19.9.25開催) 参加者62名(外部7名・内部55名)
教育講演;「がん放射線療法」
高橋 朋子(獣医放射線学)

第137回 (H19.10.9開催) 参加者108名(外部4名・内部104名)
教育講演;「Managing the animal with acute abdomen
～急性腹症の動物の管理～」
Dr.Theresa W.Fossum (テキサスA&M大学教授)

第138回 (H19.11.12開催) 参加者90名(外部4名・内部86名)
教育講演;「脳腫瘍」
北川 勝人(総合臨床獣医学)

第139回 (H19.12.17開催) 参加者55名(外部5名・内部50名)
教育講演;「乳牛と犬の発情と人工授精」
大滝 忠利(獣医臨床繁殖学)

獣医学科の近況

【6号館改修工事】

獣医学科と動物資源科学科で使用している6号館の改修工事が7月に終了しました。獣医学科は1階（獣医解剖学研究室、獣医病理学研究室、学科事務室）、2階（獣医生理学研究室、獣医微生物学研究室、獣医薬理学研究室、獣医生理化学研究室）、3階（医動物学研究室）に再配置されました。1研究室あたりの面積も広くなり、研究活動ならびに学生教育環境が一層充実しました。

【獣医師国家試験】

第58回獣医師国家試験には、日本大学獣医学科からは136名が受験し、129名が合格しました。合格率は94.9%（全国平均91.5%）で全国（全国公立私立大16校を含めて）第3位、私立大学では第1位でした。獣医学科ではここ数年、年4回の国家試験模試と試験後の解説ならびに国家試験に対応した授業の充実など積極的な努力を行っています。今回の結果は昨年同様、受験生ならびに教職員の熱意が実を結んだものと信じています。

【表彰、受賞】

平成18年度卒業生のうち優等賞が大森澄枝さん、学部長賞が中西照幸教授（対象：日本水産学会賞）、早川利里さん、小宮英明さん、日本獣医師会会長賞が臼田里美さん、体育部門優秀賞は小巻なつ実さん、角笛会会長賞は中原美喜さん、田口文香さんにそれぞれ授与されました。

【博士（獣医学）の学位取得者】

課程博士：岡村智崇氏、加藤友香氏、佐藤 豪氏、佐藤哲朗氏、手島健次氏

【人事・昇格】

山谷吉樹専任講師（総合臨床獣医学）と浅野和之専任講師（獣医外科学）がそれぞれ准教授に昇進されました。高橋朋子助手（総合臨床獣医学）が獣医放射線学研究室の専任講師として昇進・異動されました。

■新 任



（獣医外科学研究室）
手島健次助手

卒業大学（大学院）：日本大学大学院 獣医学研究科 獣医学専攻 獣医外科学研究室
研究テーマ：犬の心疾患に対する心エコー法の応用に関する研究
趣味：スキー、水泳

平成19年4月より獣医外科学研究室の助手として勤務させて頂くことになりました手島健次と申します。私は東京に生まれ、平成9年3月に日本大学付属鶴ヶ丘高等学校を卒業し、同年4月に日本大学生物資源科学部に入学しました。学部・院生時代より本学の獣医外科学研究室に在籍し、心臓の超音波検査ならびに外科学について学んできました。現在は、田中茂男教授、浅野和之准教授ならびに枝村一弥助手のもと、獣医外科学実習ならびに動物病院でのローテーション教育を担当しております。また、臨床面におきましては、本学付属動物病院にて軟部外科疾患と循環器疾患を主に診療しています。研究面に関しましては、大学院時代よりの研究テーマである、小動物の心エコー法を中心に研究を進めております。大学院時代での心エコー検査の経験に加えて、4月からのわずか半年ほどの臨床経験を通してですが、心疾患に遭遇する機会が非常に多いと感じております。特に、高齢の軟部外科疾患の犬（主に担癌犬）では心疾患がよく併発しており、術前の心エコー検査が役立つことも多く、その重要性が増していたと感じています。ここ最近はスキーにもめっきり行っておらず、趣味といえば心エコーと言われるような毎日を送っております。若輩者ですが、日本大学と角笛会の先生方のお役に少しでも立つよう尽力していきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

■平成19年度獣医学科入試状況

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
一般推薦（公募制）	学部全体で70名	70(48)	17(11)	4.1
一般推薦(公募制・関連産業後継者)	学部全体で22名	35(15)	13(6)	2.7
校友子女推薦（公募制）	学部全体で23名	6(4)	3(2)	2.0
本校試験（第1期）	40名	1,606(626)	115(51)	14.0
本校試験（第2期）	20名	799(340)	43(16)	18.6

()内は女子

■学年担任 (平成19年度)

- 1 年次：中西照幸教授 (魚病学)、浅野和之准教授 (獣医外科学)、根本洋明准教授 (教養)
 2 年次：丸山総一教授 (獣医公衆衛生学)、佐藤雪太講師 (実験動物学)
 3 年次：泉對 博教授 (獣医伝染病学)
 伊藤琢也講師 (獣医衛生学)
 4 年次：金山喜一教授 (獣医生理学)
 渋谷久准教授 (獣医病理学)
 5 年次：津曲茂久教授 (獣医臨床繁殖学)
 大滝忠利講師 (獣医臨床繁殖学)
 6 年次：湯川真嘉教授 (実験動物学)
 大場茂夫講師 (総合臨床獣医学)

◇求人のお願ひ◇

女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務医を希望する者が増えています。会員からの求人申し込みは学部就職指導課ならびに6年次担任(湯川真嘉教授、大場茂夫講師)までご連絡ください。

ト ピ ッ ク ス

ワシントン州立大学夏期獣医臨床研修参加学生を引率して

臨床繁殖学研究室 津曲 茂久 教授

2007年度ワシントン州立大学 (WSU) 夏期獣医臨床研修が平成19年7月22日から8月5日まで実施されました。今年の参加者は5年次学生28名(女子16名、男子12名)で、引率教員としては昨年と同様、私津曲、渋谷 久准教授、山谷吉樹准教授、山本美紀副手が随行しました。昨年まで実施されてきた馬コースは今年は都合によりなくなり、小動物コースのみ2班に分けて実施されました。今年、WSUとの交渉の結果として授業料は昨年比の約2割削減されましたが、研修内容は例年と同様でありました。また、参加学生に質問のノルマを課したこともあり、多くの学生が取り組む姿勢の重要性を認識したようでした。女子学生1人が2日間の入院を余儀なくされましたが、大事に至らず無事帰国いたしました。参加者が少なかったため、次年度の参加者数を増やすために、参加学生が素晴らしい研修内容を下級生に伝える機会(研修報告書の作成や報告会の開催)を設けていきたいと思ひます。



エキゾチックアニマル実習

中国成都大熊猫繁殖研究基地で第三回パンダ研修を実施

獣医生理化学研究室 渡部 敏 教授

今回で第三回となる「平成19年度 成都大熊猫繁殖研究基地パンダ研修」が実施されました。本年も予てより同基地でのパンダの保護、救済に協力してきた獣医生理化学 渡部 敏 教授を団長として、5名(2008年8月、オリンピック開催に伴う基地改修工事のため定員制限)の5年次学生が平成19年7月29日から18日間、中国のパンダ保護の拠点である成都パンダ繁殖研究基地(政府機関)で絶滅危惧種であるパンダの臨床、飼育、保護等の研修を受けてまいりました。研修を修了した学生は、総合臨床獣医学実習2単位が認定されます。



パンダの聴診

第6回日本大学医療系同窓・校友学術講演会に参加して

事務局長 丸山 総一 (昭和57年卒)

平成19年9月22日(土)、日本大学会館大講堂において第6回日本大学医療系同窓・校友学術講演会が開催されました。医学部、歯学部、松戸歯学部、薬学部、生物資源科学部(獣医学科)から、それぞれの分野でご活躍の先生方に最新の情報・技術・知識に関するご講演をしていただき、活発な質疑、応答がありました。講演終了後の懇親会では、各学部の垣根を越えて多くの先生方と懇談の輪が広がっていました。プログラムは次のとおりです。角笛会からは38名の参加者がありましたが、来年度も同じ時期に開催される予定ですので(参加費1,000円)、より多くの会員の皆様に参加していただけることを期待しています。

開会の辞

山内 盛 (当番幹事 薬学部校友会・会長の挨拶)

来賓挨拶

小嶋勝衛 (日本大学総長)

第1講演 日本大学薬学部校友会

演者：尾俣定夫 (日本大学工学部・教授)

－医工連携による次世代医療機器の開発と
バイオメディカル工学産業創出にむけて－

第2講演 日本大学医学部同窓会

演者：大園 研 (NTT東日本関東病院・消化器内科)

－最新の消化器がんの内視鏡治療
(食道がん・胃がん・大腸がん)－

第3講演 日本大学歯学部同窓会

演者：落合邦康 (日本大学歯学部細菌学教室・教授)

－常在細菌叢と感染防御機構から見た口腔と
腸管の類似点と相違点－

第4講演 日本大学松戸歯学部同窓会

演者：平山晃康 (日本大学松戸歯学部同窓会)

－顎脳機能センターの役割；
とくに口・顔・頭の痛みへのアプローチについて－

第5講演 日本大学生物資源科学部獣医学科校友会 (角笛会)

演者：酒井健夫 (日本大学生物資源科学部・教授)

－分子疫学調査研究で明らかになった
狂犬病の現状と課題－

閉会の辞

櫻井 勇 (日本大学医学部同窓会)

懇親会

角笛会関連記事(支部だより)

■新潟県支部だより

日本大学獣医学科校友会角笛会新潟県支部は、毎年新潟市で総会を開催し、平成19年度は6月24日(日)に会員34名の出席を得て開催されました。今回は大学から角笛会事務局長の獣医公衆衛生学教室 丸山総一教授をお招きし、「大学、角笛会の近況について」と題してパワーポイントによる多く写真を用いての最近の学内の状況、学生の様子、現在のカリキュラムを紹介願いました。多くの会員は湘南校舎の変貌と近代的な施設の整備、大学教育の充実に驚嘆し、大学が身近になったと大変評判でした。

総会終了後、研修会を行い、会員発表「テーマ：今、現場最前線ではPart 2」と題して、新潟市食肉衛生検査所 磯部 隆氏から「食肉衛生検査における衛生管理状況」、石山動物病院 石川安津子氏から「動物病院でのしつけ指導」の発表がありました。会員同士の情報交換で研修会の時間が超過し、懇親会が延長となりましたが、日頃交流の少ない会員同士の情報交換に会場が盛り上がりしました。



平成19年度日本大学獣医学科校友会 角笛会新潟県支部 定期総会
平成19年6月24日(日)新潟第一ホテル(前列、中央が丸山総一教授、
その右隣が田中治男支部長、その左隣が宮田萬司顧問)

例年、約半数の会員の出席ですが、女性役員の新規就任、若年層の参加呼びかけにより、若干参加者が増えましたが、田中治男支部長体制のもと、新潟県支部規約にあるように「会員相互の親睦をはかり、母校の発展に寄与すること」を目的に、今後とも参加したくなるような会の運営を実施し、更なる支部の活性化を図りたいと思っていますので御指導と御支援をよろしくお願いします。

文責：新潟県支部事務局 中林 大

■岩手県支部だより

日本大学生物資源科学部獣医学科角笛会岩手県支部は、緒先輩方のご尽力により、1973年、90余名の会員により発足しました。その活動は現在も継続し、支部会報の発行、会員名簿の作成、会員の親睦と研鑽に関する事業等を実施しています。

例年、支部総会には本部より先生のご臨席を仰ぎ、ご講演と本学の現況等について情報提供を頂いた後、懇親会を催し、会員の親睦と研鑽を図っています。

平成19年度の岩手県支部総会は、平成19年11月10日(土)、花巻市台温泉「ホテル三右エ門」にて出席者20名で開催されました。当日は本部、獣医内科学研究室の鯉江洋先生に「日本大学附属動物病院(ANMEC)の診療活動」と先生の研究テーマである「画像診断(多様な動物での活用)」のご講演を頂きました。その後の懇親会では、「日本大学生物資源科学部獣医学科創立100周年記念誌」を眺めながら、鯉江先生を交え、夜が更けるまで大いに親睦を深めました。

現在の支部会員は78名ですが、20代の会員は僅かに1名で、最近の新規入会者もなく、本学獣医学科に岩



手県出身者の在学学生もない寂しい現状ではありますが、支部会員の協力のもと、支部活動の継続、発展に努めてまいります。

今後とも、本部及び他支部の皆様のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

文責：平成5年卒業 岩手県支部事務局 今野 一之

■宮城県支部だより

日本大学獣医学科校友会角笛会宮城県支部は、平成12年まで継続して総会を開催しておりましたが、その後立ち消えになっておりました。平成16年8月27日再起を期し総会を開催し、現首藤健一支部長が選出され、以後毎年8月最終土曜日に総会を開催しております。

平成19年度は8月25日（土）に仙台市内で開催し、大学から実験動物学研究室の佐藤雪太専任講師のご臨席を賜り、大学の様子などをお話し頂き、盛会裡に終了いたしました。今年は役員改選もないため、角笛会100周年記念式典出席者の選考および表彰対象の親子三代会員の報告承認等が主な議題となりました。出席者は15名でしたが、各分野で活躍される方々の出席があり、情報交換の場として懇親会也大いに盛り上がり有意義な一晩となりました。

支部総会への多数の参加を考え、日時を設定しておりますが、以前は毎回出席されていた大先輩方も、ご高齢になり毎回の出席が難しくなっていることや、若い会員がきわめて少なくなっていることなどが影響しているのか、最近の出席者は15名前後となっております。

平成19年10月13日（土）に開催された角笛会100周年記念式典への参加は支部としても一大行事となりました。支部長はじめ会員5名が出席し、内1名は三代会員として表彰を受けました。式典後の懇親会では懐かしい先生方や、現役の教授陣等との懇親を深めることが出来、皆楽しく有意義に過ごせたことに感謝しております。

これから益々支部会員の親睦を図り、母校の発展に寄与できるよう支部の運営を活性化させて参りたいと考えておりますので、今後ともご指導ご助言をよろしくお願いいたします。

文責：宮城県支部 茨木 隆雄

角笛会関連記事(校友だより)

本号では2つの投稿がありました。同窓会の開催などお知らせいただければ掲載いたしますので、本部までご連絡ください。

愛 信 桜 会

倉林 恵太郎 (昭和36年卒・東京)

「愛信桜会」(あいしんさくらかい)は、獣医学科昭和36年卒業のクラス会の名称です。クラス担任が家畜解剖学の川田信平先生であったことから、信平先生を愛する、日本大学の花木である桜の会という意味で、在学中に命名いたしました。

従来からクラス会を各地でクラスメイトが担当して開催してきました。最近では、平成13年熊本県、平成14年千葉県、平成15年茨城県、平成16年青森県、平成17年沖縄県、平成18年佐賀県、本年平成19年島根県で開催いたしました。2泊3日の行程で開催し旧交を温めています。

毎回、開催を担当するクラスメイトは、その土地のローカルカラーを生かして観光見学する場所、食べ物などの企画に腐心されています。最近は同伴参加が増える傾向がありまして、クラスメイトは当然のことですが、夫人同士の会話にも花が咲き、親しみが増しているようです。

今年の島根県は、10月28日（日）より30日（火）までの2泊3日で、参加は会員17人と同伴9人で合計26人

でした。平成19年10月13日、六会のキャンパスで盛大に開催された日本大学獣医学科創立100周年記念式典の升酒の升を1個持参して、この升に日本酒を注ぎ、この酒を猪口に注ぎ、全員で記念の升酒を味わいました。升は開催担当の渋谷到会員夫妻にプレゼントし、大変喜ばれました。

また角笛会関係の情報提供のために、角笛会東京支部の会報「東京角笛会」第33号（平成19年10月25日発行）のコピーを配布しました。記事は、東京支部（東京角笛会）関係以外は、獣医学科創立100周年記念式典、角笛会幹事会・総会、日本大学医療系同窓・校友学術講演会、ANMEC（日本大学動物病院）セミナー、日本大学動物医科学研究セミナー、獣医学科教職員です。

そのほか、「日本獣医学人名事典」日本獣医史学会刊平成19年10月27日発行、文永堂販売の情報も提供しました。

平成20年は、卒業以来、47年になります。そして東京での開催です。交通の便利な東京に多くのクラスメイトが集まることを期待して、企画を練りたいと考えています。（平成19年11月5日記）

衛生の言葉の誕生と歴史2(全3回)

青木 蓉冶(昭和36年卒)

1 衛生のルーツを調べるきっかけは

社会生活38年間、東京都や特別区の保健所で、私たちが生まれてから墓場に行くまで、その間で利用する理(美)所・クリーニング所・浴場・旅館・興行場、墓地など営業関係施設の許認可事務や衛生監視。これと平行して空気・飲み水・衛生害虫防除・建築物衛生など生活環境衛生の確保と、多岐にわたる衛生行政を都区間で合わせて約400名の仲間達で携わってきました。(環境衛生従事職員のうち、獣医資格を有する者は片手の指の数でした。)

これらの仕事のなかで、多くの人様に対して「衛生」の二文字を深く思考することもなく安易に使っていました。齢(よわい)60余歳にして「衛生とはなんぞや」に初めて気づき恥ずかしく感じ入っています。

ここに反省心で「衛生」を調べられる限り具体的に調べてみました。

2 なぜ衛生の言葉を使うときには

衛生の言葉を使う場合に「衛生」の二文字だけで使っていませんか。

かならず「・・・衛生管理・・・」「・・・公衆衛生上・・・」「・・・衛生的に悪い・・・」で使用しています。なぜ二文字で使用しないのか。また「衛生」の言葉の意味を問われても、具体的に答えることができません。

あなたに質問します。「衛生とは何です」か。

おそらく、あなたの今の心理状態をたとえば、「蚊に腫を刺された時のような。」「靴の中の水虫が痒くなった時のような。」「想う人を口説く時のような。」「またまた、うなだれ息子の・・・あのときのよう・・・」的確に答えようとする思いと、あせれば、あせるほど苛立つ心模様の葛藤と似ていませんか。

3 医学辞典に衛生の二文字が

困った時の紙(神)頼み。

最新版の25000円もする南山堂の医学大辞典に、なぜか、どうしてか、遠視のメガネに虫眼鏡をかませても「衛生」二文字を探すことができませんでした。

そこで、広辞苑は「健康の保全・増進をはかり、疾病の予防・治療につとめること。」

大辞林は「毎日の生活に注意し、身の回りを清潔にして健康を保ち、病気にかからないようにすること。」と索引ができます。

パソコン搭載機能のエンカルタ総合百科辞典では「衛生とは健康の維持、向上をはかり、病気の予防を目的とする。」

また、「養生」や「摂生」も衛生の訳と似たりよったりの記述でした。

4 「衛生」のルーツを発見

公衆衛生学の書物に「衛生」は「莊子の庚桑楚篇(こうそうそうへん)」に出生の秘密があるとの記述を発見しました。

生来の野次馬根性に加え、幼い日のお医者さんごっこで鍛錬した探究心で、通勤経路にある書店、書店、本屋と、

ダイエットを兼ねて巡り歩きしました。

たどり着いたのが、東京駅八重洲口から鍛冶橋に近い八重洲ブックセンターです。

この4階の中国哲学書コーナーの書棚で「莊氏を読む＝後藤基巳著者」を偶然に手に取り開いた70ページに捜し求めた「衛生」の記述がありました。

このとき、なぜか「・・・天にものぼるこちぞする」懐かしい青春時代の三茶の木造校舎のトイレへ落書きを思い出しました。

5 衛生を説いた莊周氏とは

莊周氏は、医療や医事関係者ではありません。字は莊、名は周。南華真人と称して、現代で言うところの中華人民共和国の人です。

ゴルゴダノ丘で二人の強盗と共に、十字架上で30余歳の若さでご逝去あそばれたキリストさんの誕生よりも以前の紀元前4世紀後半に誕生しました。

莊氏は、中国の戦国時代の道家思想の中心人物で、儒教の人為的礼教を否定し、自然の理法である道に従って、人間のさかしらである仁義を捨て、安心自由な生活を得ようとする方法を説き主張した人物です。

彼の思想主義は、わが国の現代人に見かけることができます。

たとえば、車内で口紅やマスカラ、ファンデーション化粧に夢中な高校生やOL、また人の視線も気にかけず、「サカリついたか隣の猫」状態のラブシーン、優先席で携帯通話など、人間社会の縦横のつながりに干渉されずの現代社会の思想に似ています。

うらやましいです・・・軍靴の響く星の下に誕生し、ギブミーチョコレート不幸な時代に育ち、格差社会の年金生活、今に至る、わが身を恨みたくります。

しかし「いまの世を生きていることは最高です。」

6 「莊子の庚桑楚篇」に用いられている衛生とは

「莊子の庚桑楚篇(こうそうそうへん)」に、老子の内弟子で庚桑楚と孫弟子の南榮がいました。この篇の文中に、老子と南榮の問答で「衛生」の文字の記載があります。このくだりを「莊氏を読む＝後藤基巳著者」P70の文から、原文を抜粋します。

南榮 曰く

「たとえば村里に病人があったとしても、ひとからみまわられて、自分でその容態を述べるができるくらいならば、まだ十分に治る見込みがございましょうが、私などは先生から「道」のお話を承っても、一向に迷妄がひらかれず、ちょうど薬を飲んでますます病気が重くなったような按配です。どうかおねがいでございますから、真の生命をとり衛するなわち「衛生」の経(みち)をお説き聞かせてくださいまし。」

老子 曰く

「うむ。「衛生」の経というのはな、よく純一のきをとり保ち、本然の性情を失うことなく、ト(うらない)などをからいでも凶吉の道理をわきまえて、分に随い足るを知り、己を守って人に牽かれず、累がなく無知無心で、あたかも嬰兒というものが、一日じゅう泣き叫んでいながら声の嘎

れないのは、純和の極みだからであり、一日じゅう手を握りしめていながら、硬く曲がってしまわないのは、その徳が自然に合するからであり、一日じゅう物を視つめていながら、まばたきをしないのは、心が外物かたより動かないからである。このように全く無心の状態で、どこに行こうとも何をしようとも考えず、すべての物事に随順して、並みのまにまに漂うがごとくあること、これが「衛生」の経なのじゃ。」ここに衛生の言葉の源があります。

7 わが国「衛生」事始めと名付け親は

徳川さんが仕切る江戸時代の衛生行政は、小石川養生所や多摩川水道、養生訓にみられますが、この時代の主たる行政運営の狙いは、関が原の合戦以降、ちまたに溢れるリストラ浪人の不逞の輩の幕府転覆共謀を取締まって政権の存続を旨とする行政でした。この名残を例えば、ホテル・旅館の宿泊カードや宿帳に、また施設への立ち入り検査や監視の仕事にみることができます。

現在の衛生行政システムの誕生は、1873年（明6）文部省に医務局を設置して、医学教育・医務・薬務・衛生の事務の機構を整備したことで、公式的には衛生の事と始めとされています。

この事務の機構は医制と呼ばれ、2代目の医務局長に就任した長与専斎氏が制度を起草し、医制度は1874年（明7）8月、東京・京都・大阪の三都に発令しました。

これが、今日に至る公衆衛生行政のスタートで、行政用語の公用語で、はじめて長与専斎氏が「衛生」を誕生させ、名付け親となりました。

8 長与専斎氏が衛生を誕生させたきっかけは

1871（明4）年、岩倉具視氏が特命全権大使で政府首脳を率いて欧米に渡る使節に、長与専斎氏が随行して医療制度を調査しました。

異国の地エゲレスで「サニタリー」や「ヘルス」を耳にし、また独逸国ベルリンでは「ゲズンドハイツプレーゲ」を耳にする機会がありましたが、言葉の意味に深く気にもとめずにいたそうです。

長与氏は調査をすすめるうちに、これらの言葉が単に「健康保護」を意味するものでないことに気づき、そして、より調査を深めたところ、異国の行政組織において健康保護を担当する「サニテーツウェーゼン」「オフィェントリへ、ヒゲューネ」部署なる存在を知りました。

この部署は医学を基礎に、理化・工学・気象・統計等を法務的に組織して、住民が日常生活を送るうえでの危害防止の措置と福祉の向上を目指す事業をしていました。

具体的な仕事の内容は、伝染病予防・生活保護・清掃・上下水道の整備・市街家屋の建築規制・薬品・染料・飲食物取締りなど、今日の衛生行政を担当する保健所や、地域保険センターが行なっている日常生活に関連する事柄を網羅する内容です。

長与専斎氏は、制度の起草のうちに、欧米語の「健康」や「保健」を直訳し、異国語をそのまま使うことのプライドが許さないとする武士階級の学者です。

そこで日本語で「健康」や「保健」を表す言葉を模索し、1713年（正徳3）江戸中期、6代将軍徳川家宣の時代に教

訓書八巻で刊行した、貝原益軒著十訓著書「養生訓」からの「養生」の引用も思案しました。しかし、この言葉も、専斎氏がイメージするものではなく、思い巡らす中で幼い日に学んだ漢学に「莊子の庚桑楚篇」の「衛生」の言葉を思い出しました。衛生の字面や哲学が、高雅で、更に言葉の響きも美しく、「莊子の庚桑楚篇」で用いている衛生の趣意とは異っていますが「Sanitation」「hygiene」を「衛生」と名付け誕生させました。

※備考1

『独逸語はカタカナ表記をします。』花横文字原語の文法単位は、故 微生物学 大熊教授の部屋掃除で取得した身です。よき青春時代でした。愛称、熊さんからドイツ語試験成績一覧闇魔帳を引き継いだ、元微生物学教授の福田陽一学友には、何事も「ハイ、はい、拜」の二文字の返事です。

9 「Sanitation」と「hygiene」の違い

老いと衰えを少しでも先に延ばそうとトレーニングジムに通っています。

ジム仲間で英語の得意なエゲレス人に「Sanitation」・「hygiee」・「Health」を用いる言葉の場面に関して聞いたところ、さすが、エゲレスの人は横文字のカタカナ言葉に強い、悩みもせずに簡単に応えてくれました。

「Sanitation」は排水に用いて、「hygiene」・「Health」は人の健康に関する場合に用いると簡単明瞭。

所持する高級な電子式携帯英訳辞典では、両語句とも、衛生と記載されています。

ちなみに「hygiene」は、ギリシャ神話に登場する、いわゆるWHOで定義されるような健康を絵に描いたような、ピチピチの健康美人女神の名前です。

彼女の親父さんはギリシャ神話では医療の神様です。

わが国は、神の国で、やよろずの万物霊長の神々がいらっしゃるそうです。衛生や健康の神様の名前をご存知の方は、ご教示ください。

10 長与専斎氏の生い立ちは

長与専斎氏は医事行政家。初代の内務省衛生局長に就任。1838年肥前の国は長崎県で生まれ号は松番。緒方洪庵氏に師事し、長崎でポンペ氏から西洋医学を学びました。

1871年（明4）に岩倉具視全権大使に随行し医療制度の調査と医制をまとめ、2代目局長の彼は1875年（明8）医学教育を文部省医務局に残して、医務、薬務、衛生の事務組織を内務省（現在の警察庁）に事務が移管されて、同年7月内務省衛生局が発足しました。

それ以降、環境衛生営業関係施設の理（美）所・クリーニング所・浴場・旅館・興行場、飲食店などの取締りの規制が厳しく始まりました。

内務省衛生局の事務は、1938年（昭13）内務省社会局衛生局を警察組織に置き衛生警察官吏を誕生させました。1945年（昭和20年）太平洋戦争で敗戦したわが国は、米国指導の民主主義スタイルの誕生とともに、厚生省が創設されました。

厚生省の「厚生」は、書経の大禹謨篇および左伝の中にある正徳利用厚生惟和からの引用で、衛生と経済を意味し

ているそうです。

厚生省も2001年（平成13年）に労働省と統合され厚生労働省と改められ、保健衛生の面だけでなく、社会保障や社会福祉、労働行政に関する業務も担当しています。

また、「公衆衛生」の用語の登場は、1879年（明12）に刊行の、柴田承桂氏の訳「衛生概論上篇」の文中に用いられているそうです。（この資料募集中、謝礼無し）

11 おまけ

長与専斎の二人の子息に関する情報提供します。

長男の長与又郎は、1877年東京で生まれ、病理学者で心臓・肝臓の研究者としての権威者でした。東京帝国大学医学部長から伝染病研究所長を歴任。昭和8年東京帝国大学総長に就任。その後、癌研究所を創設しました。1941年（S16）太平洋戦争の年に、あの世に旅立ちました。

弟の芳郎は、1888年に兄と同じに東京生れで、東京帝国大学を中退し小説家、戯曲家として活躍しました。「白樺」同人。人道主義作家として認められています。

「白樺」廃刊後は、武者小路実篤氏や、志賀直哉氏らと「不二」を創刊しています。彼の小説代表作には、「竹沢先生と云う人」「青銅の基督」「わが心の遍歴」があげられます。1961年に兄の待つ世に旅立っています。

12 引用参考文献

本稿執筆に当たって、味付の参考文献は、南江堂刊の総合衛生公衆衛生学と、本稿例示の辞典と哲学書、そして見てきたような己の嘘と、思いです。燃料は大福餅混じりの中性脂肪とコレステロール混合のハイオク血潮です。スパイスは職に従事したプライドを振りかけました。

延々と書き綴ってきましたが、最後まで、お読みいただき、おつかれさまです。ありがとうございました。

「諸氏、日々の摂生に努め、養生し、ご自愛の上、お達者に、「元氣」に、お暮らしのほど、健康を祈念、祈念」いたします。

挨拶で「元氣」の言葉を使っています。

平安時代は（今昔物語）減気＝気の流れを減ずる＝ストレスを減らすこと。

江戸時代は（井原西鶴）験気＝気の流れを止めないこと。（養生訓）元氣＝気の循環を円滑に流すこと。「年齢÷2日＝接しても漏らさぬこと」。

気の源は、臍下丹田にあり、要するに臍下三寸の近くです。

※備考2

- 1 本稿は、2005年沖縄会場で、昭和36年卒の同窓研修会で用いた資料です。
- 2 同窓会名は、愛信桜会と称し、組関係の組織と間違えられますが、天国に住所を持つ、川田信平 解剖学教授のクラス主任の名と母校を愛し忘れぬように会名称にしています。
- 3 同窓幹事代表は、倉林恵太郎 君で、同窓会は卒業以降、毎年1回開催し、2泊3日で各県持ち回りの研修会を開催し、老いてますます勉学に励んでいます。
- 4 会のメンバーは、昭和32年の入学時に席を同じくしていた者で構成しています。
- 5 研修会の運営は、企画県の仲間が幹事長となって、出席者は30名程度を2泊3日運営します。なお出席者は妻同伴者が年々増加してきています。

以 上
*編集部より

第22号と多少内容が重なっている部分がありますが掲載させていただきました。

角笛会関連記事(準会員の言葉)

これからの角笛会運営にとって非常に重要な準会員（本学獣医学科学生）より2件の投稿がありました。編集部としてはこれからも積極的に参加を呼びかけたいと思っています。

「獣医学科創立100周年を迎えて」

日本大学生物資源科学部獣医学科5年 大 竹 詩 織

この度、日本大学生物資源科学部獣医学科が創立100周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。私は今回、学生という立場ながら幸運にも創立100周年記念式典に出席する機会に恵まれました。私は角笛会では準会員なので、正直なところ100年という歴史の重みをあまり実感できておらず、何も分からずに出席したというのが本音です。しかし、盛大な式典では明治時代からの貴重な写真とともに獣医学科の100年の歩みを知ることができましたし、また、その後の祝賀会では諸先生方から色々とお話を伺うことができ、本学の歴史の重みを少しでも理解できたのではないかと思います。

私は大学入学当初、「これからどのような6年が待っているのだろう。」という期待と不安を胸に桜並木を歩いたことを今でもはっきりと覚えています。あれから早5年、素敵な仲間にも恵まれ、その仲間とともに充実した設備の下で、基礎、応用、臨床の各分野で様々な授業や実習・演習などを受けています。特に、5年次、6年次の獣医学総合演習では、1年間にわたり本学の動物病院において総合臨床、外科、内科などの各診療科を回り、小動物臨床の現場を直接目で見て肌で感じるカリキュラムが実施されています。CTやMRI、放射線治療装置（ライナック）などを使用した高度医療の現場を見学できたことも、とても勉強になりました。また、獣医学専門演習では、夏休みなどを利用して国、地方自治体、企業、動物園・水族館などで実習を行い、短期間ではありますが幅広い獣医師の職域を体験することができました。大学に入学した当初、獣医師といえば小動物の獣医師しか知らなかった

私にとって、これらの実習を通じて社会のさまざまな分野で活躍されている先輩方の姿を拝見できたことはとても良い刺激になりましたし、自分の将来を考える上で大変参考になりました。

現在、私は、平成17年4月に新設された動物医科学研究センター内の獣医公衆衛生学研究室において、『猫ひっかき病の迅速診断法の開発』をテーマとして卒業研究に取り組んでいます。この研究センターでは、学生も最先端の解析・分析機器を利用して研究することができます。私たちがこのように充実した設備のもとで授業や実習を受け、研究を行うことができるのも、1世紀という長きにわたり獣医学科・角笛会を支えてこられた諸先生方のご尽力によるものと心より感謝申し上げます。

卒業まであと1年となりましたが、初心を忘れず、今後もますます勉学・研究に励むとともに、卒業後も日本大学の卒業生であることを誇りに持ち、獣医師の一人として獣医界・角笛会の発展の一端を担うことができるよう、日々努力して参りたいと思います。

最後に、この意義ある獣医学科創立100周年という節目に立ち会えたこと、そしてその100年の歴史に支えられて現在の私たちが在ることに感謝いたしますとともに、角笛会の今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。

「人と獣医学の関係について」

日本大学生物資源科学部獣医学科4年 須藤 寿 延

近年、日本において人と人との結びつきが脆弱なものになっていると言われていますが、その中で人と人をつなぐ存在となっているのが動物、つまりペットの存在ではないかと思います。私は動物と人との関係が好きです。これほど純粋に、素直に互いを思い合う関係を素晴らしいと思います。その動物を思う気持ちを人は共有できるのではないのでしょうか、そして気持ちを共有することによって人と人が結びつくことにつながるのではないかと考えます。つまり獣医師の役割は動物を通じて人と人とのつながりを結びつけること、もしくはその一助を担うことができるのではないかと考えています。私はそのような獣医師になりたいと日々思っています。人と人をつなぐ獣医師、そのためには学生である今からはっきりとした目標を設定し、精進あるのみと感じて日々勉学に励んでいます。

私は授業と実習から獣医師にとって必要な知識や技術を少しずつ学んでいます。同時に日々感じることで、獣医師による社会福祉に関する講義や実習があれば、日本大学として、社会福祉に貢献する意思表示になるのではないかと感じます。つまり知識や技術を高めていくことだけでなく、人と人が存在する社会の中で獣医師がどのように人に対して貢献できるのかということを学生が考えるきっかけになるのではないかと思います。そういった精神を大学で養うことで、さらなる獣医療の発展につながるものと信じています。

最後に個人的ではありますが、このような恵まれた環境で勉学に励むことができることを両親に感謝しています。

学 会 関 連 記 事

第45回日本大学獣医学会が下記の通り開催されました。本年も角笛会総会との合同開催となりました。

学 会 長：鳥海 弘

事 務 局：渋谷 久

日 時：平成19年6月2日(土)

場 所：日本大学生物資源科学部

第46回日本大学獣医学会開催案内

日 時：平成20年6月7日(土)

場 所：日本大学生物資源科学部

問 合 せ：事務局

〒252-8510

神奈川県藤沢市亀井野1866

日本大学生物資源科学部

総合臨床獣医学研究室(山谷 吉樹)

TEL.0466-84-3900(病院受付)

E-mail. yamaya@brs.nihon-u.ac.jp

お 礼

角笛会会員より、歴史的に貴重な献本が相次いでいます。日本の獣医学は欧米に比べて歴史が浅く、これらの本が日本獣医学の成り立ちを語る上で非常に重要であるのは間違いありません。紙上からではありますが、献本していただいた方々に心より御礼申し上げます。

獣医学科 図書委員 鯉江 洋

編 集 後 記

まず第23号の発刊が遅れましたこと、心からお詫び申し上げます。教育活動、大学業務、診療活動、研究活動などの合間にどうにか時間を見つけ、やっとまとめあげることができました。原稿を書いていた方々には、再三催促をしてしまい大変申し訳ございませんでした。今回は準会員の現役学生にも投稿をしていただきました。元気ある角笛会を運営するためにも積極的に若い世代の参加を促してゆく所存なのでよろしくお願い致します。

(平成20年1月 鯉江 洋 平成2年卒)